

じゅういちめんかんのんぼさつりゅうぞう
十一面観音菩薩立像

所 在：法華寺（本堂）

素 材：木造、素地（一部彩色）

像 高：100 cm

時 代：平安時代

文化財指定：国宝

特徴：

菩薩のごとく慈悲深かった光明皇后のお姿を彫り上げたと伝えられる、平安初期の仏像。法華寺のご本尊であり国宝に指定されています。髻（もとどり）から台座中心棒に到るまで、良質の榿（かや）の一材から彫り出し、髪、眉、目、髭、唇以外は彩色せず木肌が生かされた素木仕上げ、檀像（だんぞう）風の仏像です。通常は非公開で、春・初夏・秋の特別開扉以外の期間は、厨子の前の御前立を拝観いただけます。

法華寺は今から 1300 年ほど前、聖武天皇の後・光明皇后が、父・藤原不比等の死後、子どもの頃から住み慣れた藤原氏の邸宅を皇后宮とし、その後宮寺に改められ創建されました。正式には法華滅罪之寺（ほっけめつざいのてら）といい、総国分寺である東大寺に対し、総国分尼寺として、女人成仏の根本道場としての役割を担いました。

ご本尊である十一面観音菩薩立像は、光明皇后を写したものと伝えられています。その光明皇后は、茅（かや）を供えて疫病よけの祈願をされたり、1000 人の庶民に当時、体を清潔にして病を治すのに有効とされた沐浴の功德（くどく）を積まれたとの話もあります。また、光明皇后考案の「お守り犬」は、無病息災を祈願して、人々に授けられたのが始まりと伝わります。当時と同じ作り方で尼僧が 1 つひとつ手作りし、疫病・厄除けや長寿、安産のお守りとして現在も親しまれています。